

2019 年度事業報告

1. 言語力向上に関する事業

(1) 制度・政策活動

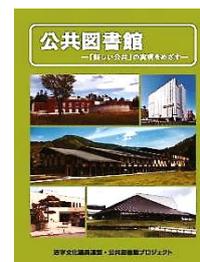
① 2020 年「学校図書館年」の国会決議に向けて

国会決議草案を作成し、5 月 21 日開催の学校図書館議員連盟総会に第 1 次草案を提出した。臨時国会会期中に採択を求めて行動したが、一部の党が決議案提出に反対したため、提出には至らず 12 月 9 日臨時国会は閉会した。当機構は反対理由の確認を行い、回答を得たことを受け、この一連の動きについて、12 月 13 日、経過と結果について賛同団体に対し、文書で報告した。

② 公共図書館改革と地域の読書環境の整備

2019 年 2 月に発足した「公共図書館プロジェクト」の継続事業。

4 月～5 月に 5 回の会議ならびに関係団体・個人からヒアリングを受けて、公共図書館の現状、改革課題、新しい「公共」をめざす提言などを盛り込んだ答申を 6 月 24 日、活字文化議員連盟・細田博之会長に手渡した。8 月には答申内容を 1 冊に収め、体裁 20 ページ、B5 サイズのパンフレット『公共図書館―「新しい公共」の実現をめざす―』を刊行した。全国の公共図書館、教育委員会、関係者などに頒布したところ、各地から好評を得て発送依頼が続き、第 3 刷の増刷をおこなった。



(2) 言語活動の基盤整備のための事業

① 言語活動推進フォーラム事業

「みる！きく！ふれる！絵本ライブ」と題し、広島・埼玉・石川の全国 3 会場で開催、同時に「伝えよう！絵本の世界」と題した読書関係者向けのセミナーも各会場で実施するとともに、読み語りスキルアップ講座など、地域で活動する人に向けた研修も実施した。また、「とびだす絵本づくり」や絵本専門士による読み語りをはじめ、バリアフリー図書の展示や「点字の体験コーナー」も実施した。

▼ 9 月 15、16 日／広島県・広島市：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前
第 1 部では、あそび歌作家の鈴木翼さんとミュージシャン&マジシャンの大友剛さんによる歌と踊りや楽器を中心に手遊び、手品など盛りだくさんのパフォーマンスを展開。第 2 部の絵本作家・宮西達也さんのおはなし会



では、『おまえうまそうだな』など自身の絵本作品の読み語りをユーモアたっぷりに披露。参加者や鈴木翼さんと大友剛さんも舞台上がり、役者に仕立てて物語を演出した。地域の親子約 300 名が参加した。

また、朗読指導者養成講座第 1 期修了生の橋本恵子さんを講師にセミナーを開催。グループワーク形式で、朗読の仕方など、実践に役立つ知識、ノウハウについて講義した。36 名が参加した。



- ▼ 2020 年 1 月 25、26 日／埼玉県・大宮市：TKP ガーデンシティ PREMIUM 大宮 第1部、鈴木翼さんと大友剛さんによる歌・踊り、手遊びなどのパフォーマンスが披露された。第2部、絵本作家のさいとうしのぶさんのお話会では、大型スクリーンにわらべうた絵本を映し出し、会場全員で歌ったり、布で出来ている手作り絵本や、会場を一周するくらいの長さがある巻き物状の絵本に子どもたちは大興奮。親子約300名、セミナーには18名が参加した。



- ▼ 2020 年 2 月 29 日、3 月 1 日／石川県・金沢市：北國新聞・赤羽ホール 絵本作家 tupera tupera の亀山達矢さんによる講演、ミュージックユニットのケロポンズによる楽しい歌や踊りのステージを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催を中止した。

2. 人材育成・能力開発に関する事業

(1) 読書推進のための活動

① 「広げよう！子供の読書応援隊」

あらゆる子どもの読書習慣の育成を目的として、全国で3つのテーマ、4日間の日程でフォーラムを主管した(国立青少年教育振興機構主催)。

- ▼ 7 月 14 日／国立オリンピック記念青少年総合センター・国際会議室 「語り合おう！読書バリアフリーのこれから～障害のある子供と本をつなぐ～」と題して開催。第 1 部では小学校教諭・神山忠さんが、自身の読字障害・ディスレク

シアの体験をもとに、その特性や読みやすくなる工夫などを講演。第2部では神山さんに加え、全盲の西田梓さん、筋力低下の難病で上肢障害のある見形信子さん、全盲で筑波大学附属視覚特別支援学校教諭の宇野和博さんがパネルディスカッションを行った。成立したばかりの「読書バリアフリー法」の紹介とともに、



困難を抱える子供たちの視点に立った接し方、各々特性に応じた学習方法・支援方法の例などを紹介した。また、パネラー自身の障害と読書の関わり方や出版社、図書館への要望も語られた。180名が参加した。

▼ 10月19、20日／国立オリンピック記念青少年総合センター・国際会議室

「子供の発達段階に応じた読書活動～未来をひらく本とのであい～」と題し、胎生期、乳児期、幼児期、学童期の各専門分野の学識者による講演、シンポジウムを開催するとともに、現役アナウンサーによる読み語りの実演を行った。

*胎生期講演会

神山潤さん（東京ベイ・浦安市川医療センターCEO）は、胎児への読み語りは母親の前頭前野を刺激し、子供への愛着形成のために有効であると語った。アナウンサーの山根基世さんは、子供の心を育む言葉を身につける重要性を説き、同時に朗読の実演を行なった。

*乳児期講演会



ノンフィクション作家の柳田邦男さんは、文字の無い絵本『アンジュール』を例に、「絵」から徐々に意味を感じ取り感性が磨かれていくという、「絵」の力に着目した。また、実例として自身のお孫さんとの交流を写真、スライド、イラストで紹介された。絵本専門士

でもあるフリーアナウンサーの近藤麻智子さんは読み語りの実演をとおり、親子で楽しめる手遊びなどを紹介した。

*幼児期講演会

IPU・環太平洋大学教授の内田伸子さんは、AI技術の発達により子供をとりまく環境が変化するなか、人間にしか持ち得ない「想像力」を育むことの重要性について述べた。また、読書によって未知の情報を知ることによって想像力が培われると強調した。フリーアナウンサーの進藤晶子さんは、相手に伝わる読み方のコツなど朗読を通じて伝えた。



*学童期以降講演会

酒井邦嘉・東京大学大学院教授は、学童期における読書は情操教育として重要な役割を担い、「言葉」に支えられた柔軟な思考力と豊かな「心」の両輪で読解力が培われると語った。

*総括シンポジウム

冒頭、田揚江里・東京学芸大学非常勤講師は小学校の学校図書館での読書推進の取り組みを紹介した。続いて、内田教授、酒井教授、田揚講師、鈴木・青少年教育振興機構理事長が「子供の発達段階に応じた読書活動」をテーマに、2日間のフォーラムの総括として意見交換を行なった。「発達段階」を柔軟に捉え、多様性を大切にする視点が重要であること、保護者・地域・教員などが一体となって読書推進に取り組んでいく必要があると締めくくった。2日間で延べ450名の参加者があった。

▼ 12月15日／大阪樟蔭女子大学・翔空館

「困難を抱える子供たちのために」と題し、森絵都さん(作家)と石井志昂さん(「不登校新聞」編集長)の対談とお二人にひこ・田中さん(児童文学作家)と堀川照代さん(青山学院女子短期大学教授)、菅正隆さん(大阪樟蔭女子大学教授)を交えて、読書でつくる子供の居場所について語っていただいた。220名が参加した。



▼ 広報冊子発行

「広げよう！子供の読書応援隊」フォーラムの様子をダイジェストにまとめ、子供と本をつなぐ人たちへのインタビュー等を掲載した『広げよう！子供の読書応援隊〜フォーラム報告と7つの視点からのインタビュー』(オールカラー・32頁)を1万部作成し、全国の児童図書館、学童保育施設等に配布。

② シンポジウム「スポーツが開くことばの世界」(共催:日経)

10月3日、日経ホールで、「スポーツが開くことばの世界」と題して開催。基調講演では元陸上選手の為末大さんに「アスリートとことば」をテーマに、豊富な読書体験から、言葉が競技力を高め、支えになったことなどを語っていただいた。続くパネル討論では、為末大さん、作



家・堂場瞬一さん、慶應義塾大学教授・今井むつみさん、モデレーターの日経編集委員・北川和徳さんがスポーツと読書の関係について、自身の経験を交えた活発なトークが展開された。約 400 名が来場した。

③ 「こども本の森 中之島」設立記念講演会

文学をはじめとした良質で多様な芸術文化に直接触れることができる子どもたちのための新たな施設として 2020 年 3 月に開館した「こども本の森 中之島」。この誕生を記念した講演会を開催。

▼ 8 月 18 日／大阪中央公会堂

2012 年にノーベル生理学・医学賞を共同受賞で、今回名誉館長に就任された山中伸弥さんが登壇。高学年くらいからSFなどかなり本を読み、今の科学者という仕事につながっているのかもしれないと、自身の読書体験を振り返り、それとつながる現在の活動が紹介された。親子を中心に約 1,100 人が参加。



▼ 2020 年 1 月 18 日／大阪市立科学館プラネタリウム

宇宙飛行士・毛利衛さんが登壇。子ども時代に影響を受けた本の一つに、宮沢賢治の『グスコーブドリの伝記』を挙げ、科学者は人の役に立ち、世界を豊かにすると実感し、科学者の道へ進むきっかけになったことを披露。本を読んで想像力をつけ、環境問題など未来のことを考えてほしいと語った。親子(小中学生)約 300 名が参加。



(2) 言語活動・読書推進リーダーの育成事業

① 山根基世の朗読指導者養成講座

アナウンサー・山根基世さんを講師に、朗読を通して地域のつながりや子どもの言葉を育てる活動の核になる朗読指導者の育成を目的とした講座。第 5 期を 4 月より 2 クラス(各クラス 30 名)開講した。今年度は、第 1 期修了生の石井庸子さん、進藤晶子さんも講師に加わり、グループワークをとおして、この講座の特徴でもある「録音して聞く」、耳を鍛えることで各人がレベルアップをめざした。3 月の最終講座となる朗読発表会ならびに修了式は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。

3. 情報提供・広報活動に関する事業

(1) 広報活動

① 高校生ビブリオバトル

高校生書評合戦(ビブリオバトル)東京都大会

10月6日(日)、東京都教職員研修センターにおいて、高校生言葉の祭典「高校生による書評合戦(ビブリオバトル)」東京都大会を開催した。今年度は1回戦から決勝までを1日で行い275名が参加、準決勝へ42名、決勝へ7名が進出し、チャンプ本『青の炎』と、準チャンプ本『星を継ぐもの』を推薦した2名が決まった。この上位2名は2020年1月26日(日)に開催される全国大会に出場した。当日は作家・島田雅彦さんが「青春と読書」をテーマに講演を行った。

(2) 情報提供事業

① JAPAN/MARC頒布活動

国立国会図書館の書誌データ「JAPAN/MARC」「JM-BISC」を頒布。公立図書館、学校法人、一般企業など11施設・法人与契約した。本年度で本事業は打ち切りとなり、関連企業に引き継いだ。